

## 谷川岳 中芝新道（堅炭尾根）登り口の偵察結果（2020/10/07 現在）

● 荒廃&崩壊のために廃道となり、谷川岳登山指導センターから通行禁止要請が出ており、また、国土地理院 2.5 万図幅からも登山道（破線）の記載が削除されている中芝新道登山口付近の様子を偵察してきました。旧道・芝倉沢出合から芝倉沢に少し入った地点までの状況ですが、以下、簡単に報告します。



### 1. 「中芝新道」登山口の状況

中芝新道の登山口は、旧国道・芝倉沢出合からまず芝倉沢を遡行するが、この入渓点が分りにくい。堰堤右岸の笹の中に「中芝新道登山口」を示す小さなレリーフ標石があるが、標石は笹に隠れていて小さく、また刻まれている文字も小さくて判読しづらいので、この標石が中芝新道への入り口を示す標識であることを見逃し易い。

また、付近は笹が密生していて踏み跡が全く消えている。登山道を示す看板標識は何も無い。この堰堤から見上げた芝倉沢は極く小さな沢にしか見えないで、この沢が芝倉沢本流であることを見落とし易い。堰堤を渡って蓬峠の方に行き易い。或いは堰堤すぐ手前の小さな沢（虎ロープが垂れている崩壊した小さな沢）を登山道入り口と誤解するかもしれない。

中芝新道への入り口はレリーフ標石のすぐ左の笹の中で、笹を分けて入る。



(「中芝新道入口」の文字が見える)

## 芝倉沢入り口付近拡大写真



(中芝新道の入り口。旧道・芝倉沢出合堰堤の右岸の笹の中)

### 2. 芝倉沢・大岩付近の状況

芝倉沢入り口から 100m 程奥に登った所に通称「大岩」という大きな岩があり、モノの本によっては大岩にペンキ印が描いてあるという記述もあるが、ペンキ印などは何も無い。上の左側の写真で中央やや右下部に映っている大きな三角岩である。この大岩の少し下部に高さ 10m 程の滝が掛っている。この滝までは、大きなゴロタ石を越えて右岸を辿るが、途中 2 箇所ほど急な壁があり、登りは何とか登れるが、下りの場合には懸垂下降が必要と思われる箇所もあった。

大岩の下の 10m 滝はクライム不可能で巻くしかないが、流芯の左側は逆層壁になっていて登高不可能、右側もホールドが無いヌルヌルの大岩の積み重なりで越えられそうにも見えなかった。よく見ると滝の右側の草付斜面に腐食した赤テープが付いていて、どうやらここが巻道ルートらしかったので、トライしてみたが、

この草付は急斜面の上に小さな雑草が濡れセンベイ状に貼りついているだけのヌルヌルの急斜面で、ホールドになる草木が全く無く、何とか這い上がってはみたが、下りは如何ともし難く、こんなこともあろうかと持参していたロープを使用して懸垂下降で下りたかったのであるが、



残念なことにこの斜面には懸垂下降の支点になり得る灌木が全く生えておらず、懸垂ロープが張れなかった。

いずれにしても、この 10m 滝の巻道は非常に分かりづらいし、また微かな踏み跡もケモノ道程度にもいならず、非常に危険と思われた。

出合堰堤からこの 10m 滝の落ち口まで僅か 100m 程の距離の往復に 1 時間 40 分を要した。

という次第で、本来の目的、中芝新道の堅炭尾根取付点までは行けなかった。

よって、この取付点付近で起きていると思われる斜面崩壊については偵察できなかった。

以上